

会 議 概 要

会 議 の 名 称	令和6年度第1回弘前市地域自立支援協議会
開 催 年 月 日	令和6年8月29日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	16時から17時まで
開 催 場 所	弘前市民会館1階 大会議室
議 長 等 の 氏 名	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会(弘前市身体障害者福祉センター長) 小林 雅也
出 席 者 (16名)	弘前市地域自立支援協議会委員 地域生活支援センターぴあす 所長 五代儀 明子 障がい者生活支援センター「すみれ」所長 川村 和康 津軽障害者就業・生活支援センター 所長 村上 武史 NPO法人光の岬福祉研究会 代表理事 太田 真 NPO法人 銀河 理事長 菊池 健弥 弘果 弘前中央青果(株) 常務取締役 齋藤 嘉章 株式会社弘前ドライクリーニング工場 生産部副部長 乳井 卓也 青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事 土岐 浩一郎 弘前市身体障害者福祉連合会 会長 森山 正 弘前地区心身障害児者父母の会連合会 理事 齊藤 久利子 弘前圏域ピアサポーター「だんだん」の会 古川 裕也 社会福祉法人弘前市社会福祉協議会(弘前市身体障害者福祉センター長) 小林 雅也 弘前人権擁護委員協議会 弘前・西目屋地区部会 部会長 相馬 隆子 弘前学院大学社会福祉学部 講師 丸山 龍太 弘前公共職業安定所 所長 中嶋 真理子 中南地域県民局地域健康福祉部保健総室 総括主幹 青木 範子
欠 席 者 (5名)	社会福祉法人 藤聖母園 児童発達支援センター弘前大清水学園 園長 三浦 睦智美 一般社団法人弘前市医師会 理事 菊池 淳宏 弘前大学医学部附属病院周産母子センター 助手 山本 達也 弘前地区小学校校長会 弘前市立松原小学校 校長 土岐 賢悟 弘前第二養護学校 校長 石戸谷 恒鋭

事務局職員の 職氏名	<table border="0"> <tr> <td>福祉部長</td> <td>秋元 哲</td> </tr> <tr> <td>福祉部障がい福祉課長</td> <td>成田 亜弘</td> </tr> <tr> <td>福祉部障がい福祉課長補佐</td> <td>前田 修</td> </tr> <tr> <td>障がい福祉係長</td> <td>鈴木 由乃</td> </tr> <tr> <td>障がい福祉係総括主査</td> <td>田澤 磨美</td> </tr> <tr> <td>障がい福祉課主事</td> <td>水木 俊介</td> </tr> <tr> <td>障がい福祉課主事</td> <td>小枝 純暉</td> </tr> </table>	福祉部長	秋元 哲	福祉部障がい福祉課長	成田 亜弘	福祉部障がい福祉課長補佐	前田 修	障がい福祉係長	鈴木 由乃	障がい福祉係総括主査	田澤 磨美	障がい福祉課主事	水木 俊介	障がい福祉課主事	小枝 純暉
福祉部長	秋元 哲														
福祉部障がい福祉課長	成田 亜弘														
福祉部障がい福祉課長補佐	前田 修														
障がい福祉係長	鈴木 由乃														
障がい福祉係総括主査	田澤 磨美														
障がい福祉課主事	水木 俊介														
障がい福祉課主事	小枝 純暉														
会議の議題	委員改選に伴う委嘱、組織会、その他														
会議資料の名称	次第 委員名簿 席図 各専門部会の令和5年度活動報告及び令和6年度活動計画														

会議結果	
1 開会	
2 委嘱状交付	委嘱状交付後、市長挨拶。
3 組織会	<p>社会福祉法人弘前市社会福祉協議会（弘前市身体障害者福祉センター所長）小林雅也委員を会長にこの推薦があり、全会一致で決定。</p> <p>会長より、会長職務代理者として、弘前学院大学 丸山 龍太委員を指名。</p> <p>専門部会の所属について、会長より、事務局案配付を指示。</p> <p>《事務局案》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門部会：五代儀 明子委員、川村 和康委員</li> <li>・就労支援専門部会：村上 武史委員、齋藤 嘉章委員、乳井 卓也委員、中嶋 真理子委員</li> <li>・こども専門部会：太田 真委員、菊池 健弥委員、三浦 睦智美委員、土岐 賢悟委員、石戸谷 恒鋭委員、齊藤 久利子委員</li> <li>・地域移行専門部会：五代儀 明子委員、菊池 淳宏委員、土岐 浩一郎委員、古川 裕也委員、青木 範子委員</li> <li>・医療的ケア児専門部会：菊池 健弥委員、三浦 睦智美委員、山本 達也委員、石戸谷 恒鋭委員、青木 範子委員</li> </ul> <p>委員からの反対意見はなく、案のとおり決定。</p> <p>専門部会の部会長について、会長より以下のとおり指名。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門部会：川村 和康委員</li> <li>・就労支援専門部会：村上 武史委員</li> <li>・こども専門部会：太田 真委員</li> <li>・地域移行専門部会：五代儀 明子委員</li> <li>・医療的ケア児専門部会：菊池 健弥委員</li> </ul>
4 会議 （1）各専門部会からの報告等について	各部会からの令和5年度活動実績及び令和6年度活動計画についての資料配布。
質疑・意見等 川村委員	（相談支援専門部会）

	<p>弘前市のHPに掲載している相談支援事業所ガイドブックの改訂作業を行っている。</p> <p>また、横のつながりをつけるためにも以前やっていた部会長会議を、復活させたい。本会は重要だがいつも開催するわけにいかないの、部会長会議で地域のことを話し合い、各部会でどのようなことをやって連携を取っていくのかやっていきたい。また、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点についても、圏域8市町村のことも考えながら議論を深めたい。</p>
森山委員	<p>先ほど市長からも言われたように、身体障害者福祉センターが弘前市障がい福祉プラザとして開始したが、我々当事者の意見を聞いて作られ、これから若い人達にとっても利用しやすい施設ができたことはありがたい。</p>
太田委員	<p>(こども専門部会)</p> <p>こども家庭庁ができ、障がいの有無に関わらず、「こども」という大枠の中でこどもの福祉を進めていくことになる。個人の状態や機能、能力だけでなく、生活の状態に目を向け、ICFの生活モデルを基本に考え、環境を整えて支援していく体制づくりに繋げていきたい。以前から本会でも話しているが、こどもの総数が減っているが支援を要するこどもが急増していることへの課題意識が不足していることが課題。また、一般施策で受け止めきれないこどもの居場所が障害福祉サービス、特別支援学校・学級に集中し、インクルーシブなまちづくりを推進する市の理念に逆行している点、特別支援学校のみが選択肢だったこどもに地域の学校で学ぶ選択肢を増やせていない点、それらに繋がる障がいへの理解促進、そこを話し合っていく。こどものホワイト化、優性主義志向を大変危惧しており、こども家庭課や地域の学校と協働して進めていきたい。また、事業所が増えることによる質の低下が問題となっていることから、今年度、部会に紐づいた「児童発達支援管理責任者連絡会」を設立した。こちらも具体的な取組を進めたい。</p> <p>また、部会が増えてきているため、部会構成を協議会や部会長会議で考えていきたい。</p>
古川委員	<p>自分自身が精神疾患の当事者であり、「ピアサポーターだんだんの会」で当事者同士の支え合いの活動をしている。地域で自分らしく暮らせるようになること＝リカバリーという考えが重視されており、これまでの自分の経験を発表するなどしてい</p>

	<p>る。障がい者だけでなく地域の人みんなが住みよい社会にしていくために当事者として力になればと思っている。地域移行についても精神だけでなく3障がい・難病の方とも連携しながら進めていければ。</p> <p>川村委員 精神保健福祉法改正にあたり、入院者訪問支援事業の研修を県で来月行うことになっているが、市長同意の医療保護入院者が対象者であることから、市と一緒にやっていけることがあればやっていきたい。</p> <p>事務局 今年度、報酬改定により就労継続支援A型事業所の廃止が相次ぎ、解雇となった利用者が多数。ハローワークと連携して8月初旬に就職面接会を開催したほか、商工会議所を通じて会員企業へ就労継続支援A型事業所についての理解促進及び業務のマッチング等、支援策について商工会議所と協議を重ねているところ。また、障がい児の事業、基幹相談など、簡単に解決しない課題だができるだけ早い段階で詰めるところは詰めて、より良い市の在り方を作っていきたい。</p> <p style="text-align: center;">(会議終了)</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の公開、非公開（公開）</li> <li>・ 取材（陸奥新報）</li> </ul>